

## 総合的な災害リスク管理——

### シンガポール消防隊による公教育およびコミュニティ福祉計画

#### シンガポール

はじめに

1. シンガポール消防隊 (SCDF) は、生命および財産を保護救援してシンガポールの安全を確保することを使命としており、コミュニティに積極的に参加し連携することにより、シンガポールの回復力および災害対策を強化するために、さらなる労力を費やす必要性を認識している。SCDF は、災害に対する国家的対策を総体的かつ長期的に見ている。各市民が緊急時手順に精通し、それぞれの任務を協力して果たさない限りは、たとえ最良の計画でも失敗する可能性があることを認識している。SCDF にコミュニティ参加教育作業が設けられたのは、この信念に基づいてのことである。

2. 緊急事態に対する備えにコミュニティを関与させ参加させるために、SCDF は住民部門、商業施設および工業地域コミュニティ、教育機関などさまざまなターゲット集団に向け多方面からのアプローチを採用した。SCDF はさらに、国立消防会議 (NFPC) および消防隊幹部委員会 (CDEC) との連携により、住民の火災対策と予防措置に対する認識を高めている。

#### 公教育および共同体福祉計画

3. 住民が新しいセキュリティ環境に慣れることができるように、住宅団地、商業施設、工業施設で緊急事態の備え (EP) 日と呼ばれる 72 のコミュニティ演習が毎年行われる。参加者は、室内保護対策 (IPP) などの異常事態に対する準備を整え、化学物質による災害から自分自身、家族、同僚を守る。



室内保護対策

4. 国民に緊急事態の備えスキルを教育し続けるための原動力は、年中無休で利用可能なコミュニティ緊急事態の備えプログラム (CEPP) により強化された。CEPP は応急処置、心配蘇生法 (CPR)、防火、死傷者後送、戦争や異常事態への非常事態に対する対応などの消防隊に欠かせないスキルや知識を 5 つの訓練カリキュラムにまとめている。各カリキュラムは SCDF の消防隊 4 隊により実施され、住民や職場の従業員に生命救助に欠かせない知識およびスキルを身につけてもらうことを目的としており、理論と実際の訓練の両方を含んでいる。

5. SCDF は、さらに一歩進み、シンガポール軍 (SAF) やシンガポール警察 (SPF) にフルタイム勤務する正規将校および軍人などの人材を確保するための組織的努力を開始した。SCDF は、訓練プログラムを通して、年間約 2 万 5,000 名の SAF および SPF の将校を訓練する予定である。正規将校および軍人には、基礎的軍事訓練センターにおける基礎的軍事訓練、ホームチーム・アカデミーにおける基礎的警察訓練、そして SAF および警察部隊の現職者に実行中のさまざまな訓練の一部として CEPP のカリキュラムが教えられる。2003 年 9 月 22 日の開始以降、合計 22 万 590 名の参加者がこのプログラムを利用している。



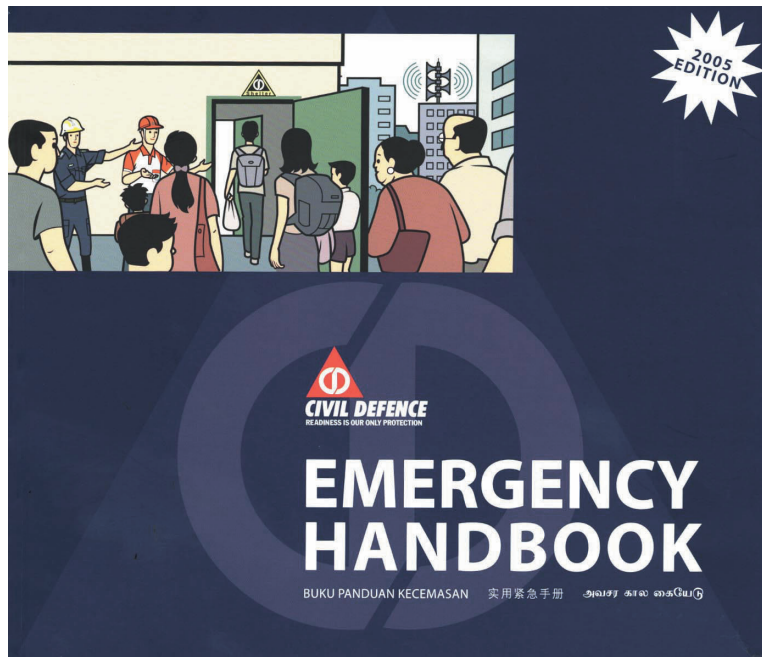
応急手当に関する CEPP の訓練

6. SCDF はまた、国家消防協議会 (NFPC)、シンガポールホテル協会 (SHA)、シンガポール製造業者連盟 (SMa)、シンガポール防火管理者協会 (FSMAS) など代表的な国家レベルの特定営利団体を通じて、商業施設や工業地域コミュニティを支援してきた。SCDF は特に、さまざまな産業地区や工業団地の安全・危機監視団 (SSWG) だけではなく、各企業の防火管理者と緊密に協力し合い、緊急時対応要員が到着する前に緊急事態に対処できるように彼らの能力を強化している。このために企業緊急時対応チーム (CERT) が形成される。企業の主要スタッフから成る CERT メンバーはばや、化学物質による災害への対処、避難、危険物の特定、多くの項目の中から疑わしい物体を発見するなどの緊急事態初期行動を実施できるように、SCDF の訓練を受けている。産業地区や工業団地内の企業各社は、資源の乏しさを克服するため、数社で共同出資して SCDF の資源や専門技術を得ることもできる。島を複数のグループに分け、資源と専門性を容易に共有できるようにして化学物質による災害に備えているジュロン島の相互扶助体制など、さまざまな工業施設や商業施設における相互扶助体制は、このような努力のよい例である。

7. 近年では、SCDF の役割は拡大しており、テロリスト対策として商業用建築物の緊急事態の備えを高めるための対策の強化も実施している。多くの商業用建築物、特に高層建築ではアーソン予防計画 (APP) と室内保護対策 (IPP) が実施されており、いかなる防火システム破壊行為が発生しても回復可能となるように、そして外部の化学物質による災害に対処できるように、建築物管理を強化してきた。建築物管理者や居住者による緊急計画や緊急手順の練習を支援するための避難訓練の実施頻度も増加した。高層建築では、建築物内外における避難や移動が無事に、迅速に、秩序立って完了するように、居住者の火事対策支援を目的とした避難訓練を年 2 回実施しなければならない。

8. 国民に基本的な備えに関する情報を提供するために、SCDF は 2005 年 4 月、消防隊緊急ハンドブック第 5 版を出版した。このハンドブックには異常攻撃が発生した場合に汚染除去を行う必要があるとき、人々はどのように行動すべきかなどの新しい緊急事態の備え対策が記載されている。ハンドブックのコ

ピーは、SCDF のウェブサイトからダウンロードすることもできる。脅威を認識し、緊急時に適切な自己保護対策を実施するための知識を国民に提供するために、SCDF の緊急勧告は、2006 年・2007 年版イエローページ買物ガイドの各共同体のページに挿入され、約 140 万の家庭と企業に配布された。SCDF はまた、テクノロジーを利用して、2007 年 2 月に「携帯電話対応 (Ready Mobile)」を開始して読みやすさを向上させる。非常に小さな公教育用アニメーションクリップやテキスト形式の midlet プログラムを携帯電話にダウンロードすることができる。日常生活を送りながらも情報に容易にアクセスすることが可能となるだろう。



9. 緊急事態への備え作業においては学生もまた無視できない。近隣の消防署から渉外担当者が 177 の小学校に配属されており、校内の緊急事態対応計画や緊急時対策演習を支援するだけでなく、認識向上のための授業、それをサポートする展示会や実演を行い、消防署への訪問を促している。学校内の防災教育を促進するための SCDF と NFPC との共同作業の一環として、小学生には「防火についての人形劇」、中学生には「防火についての劇」が上演され、校内の図書館には、物語にあわせて参照できる防火に関する CD-ROM や大判の絵本も提供される。毎年、中学三年生約 3 万 5,000 名が CEPP の訓練を受けている。国家消防学生軍事教練帯 (NCDCC) ができてからは、25 の中学校が参加している。少年団、聖ジョ



防火についての人形劇

ン救急隊、赤十字など制服のあるグループに参加している生徒にも緊急手順が教えられている。

10. 2006年4月、国民が消防に参加するもう1つの手段として消防予備団（CDAU）体制が正式に開始された。CDAUのメンバーは、SCDFの制服を給与され、SCDFのメンバーと同じ地位や力を持って正規将校と並んで前線での職務を実行する。彼らは火事、救援、救急輸送支援業務、地域社会の参加、公教育その他の専門的な内容の活動分野に貢献する。CDAUのメンバーは現在79名であり、2009年までには300名に達することが目的とされている。

#### 結論

11. SCDFは、シンガポールの新安全体制確立に向けて、一般国民だけでなく特定の集団にあわせて、緊急事態の備えに対する新しい公教育プログラムと手順を積極的に考案している。SCDFの課題は、緊急事態の備えに対するプログラムの戦略を立て、これを興味深いものにし、かつ共同体のニーズを満たすことである。これにより、住民が緊急事態に対処するために必要な知識と手段を身につけることができるのである。

#### 連絡先

12. 質問および不明点は（共同体準備）広報部アシスタントディレクター、MAJ Md Zulkifli bin Kassim まで

(Md\_Zulkifli\_Kassim@scdf.gov.sg)